

議会傍聴のお願い

現在、仙北市議会では市民の皆様の民意をできる限り市政に反映させるべく、徹底した議会改革を進めています。

そのために定例議会後に各地で議会報告会を開催したり、様々な機会をとらえて、市民の皆様の生の声をいただきたいと、努力をしているつもりですが、なかなかご理解を頂けていないのが現状です。そうした中にあっても、私ども議会としては、やはり直接議会を傍聴して頂いた上で

の、忌憚の無いご意見が最も重要であると考えています。

今、秋田県は有史以来、人類が経験した事の無い程の人口減少と、超少子高齢化の危機に直面しています。中でも仙北市は県内で、その最先端グループに位置し、まさにその実験場の様な様相を呈しつつあります。市の今後の財政のあり方と、市民人口の激減をどこで、どの様に折り合いをつけられるのか、それとも、財政破綻してしまうのか、こ

れから、仙北市の存亡を賭した、当局と議会の待ったなしの論戦が始まります。その選択に多くの市民の皆様が明日が懸っていると云えます。是非とも傍聴頂いた上で、議会に対して、大所高所からの、多様なご意見を寄せて下さいますようお願い申し上げます。

○9月定例議会は市長選挙（9月29日告示・10月6日投票）の関係から現在8月19日からの会期予定で調整が進められています。

（阿部則比古記）

傍聴席 市議会を傍聴して の感想

佐々木功（角館町）

6月議会を拝聴いたしました。議員は市民の代表であることの自負心から広い知識、資料を駆使しており、当局はそれを追従参画しての質疑答弁の展開でした。一般質問はこうあるべきとの定義はないものとは思いますが、ただ一

つ質問時においては攻守入り乱れて発言されているが今一度、しっかりと足元を確認願いたい。発言中には何を求めているのか？何が求めている核心なのか釈然としていないような気がしました。ただ発言、言葉を羅列すればいいものではない筈です。発言行為の善し悪しは言葉の量ではありません。その質であります。時には長く又は短くなることもありましよう。貴重な時間です。もっと吟味して四方八方からの備えを十分にして下さい。

折角の一般質問でありませぬ。予算を伴う事案もあるかも知れませぬ。当然ですが現時点では予算もありませんので、どの時点で事業化、予算化するのか、どれくらいの規模なのか何うことも肝要かと思ひます。今後どのように展開していくのか、現実になるのかならないか：単なる質問となるのか、その行方を更に一般質問して追及するか？概して時が過ぎればリセットされるが多すぎる気がしません。

一般質問・定例会議案質疑はすべて通告性で、当局側からは用意周到な答弁が返ってくるが、臨時議会や議会最終日に追加提案された議案は通告なしで、一議案につき一人3回の質問、時間は20分と制限はあるが、今回は、角館庁舎移転に関わる5施設の耐震調査を行うことに質疑が集中した。

議会だよりが発行されるまで、担当議員が一堂に会するのは3回、急ぎ足でまとめてしまいたいのだが、時間をたっぷりかけるのは校正である。関心の薄かった議会だよりに、この頃、目がいくようになったという女性の声に後押しされて、発行に至ったことに感謝。

（平岡裕子記）

編集後記

